

2016年10月11日 全3頁

Indicators Update

8月国際収支統計

輸入金額減少、第一次所得収支受取増加が黒字幅拡大要因に

エコノミック・インテリジェンス・チーム
エコノミスト 齋藤 勉
エコノミスト 小林 俊介

[要約]

- 2016年8月の国際収支統計によると、経常収支は2兆8億円と、26ヶ月連続の黒字となった。季節調整値で見ると、経常収支は1兆9,757億円と29ヶ月連続の黒字となり、前月（7月：1兆4,478億円）から黒字幅が5,279億円拡大した。
- 8月には、前月に金額が大きく縮小していた「仲介貿易商品」が反動で増加したことによる輸出金額の増加と、円高に伴う輸入金額の減少が貿易収支の黒字幅拡大に寄与した。さらに、直接投資収益の受取が増加し、第一次所得収支の黒字幅も拡大したことが、経常収支の黒字幅拡大要因となった。一方、旅行収支受取額の減少は黒字幅縮小要因となった。
- 先行きの経常収支は、緩やかな黒字幅拡大を見込んでいる。足下で輸出数量に底入れの兆しが見られていることにより、輸出金額は緩やかな拡大基調が続くとみている。足下では原油価格が上昇しているものの、輸入金額の増加幅は小幅なものにとどまるだろう。貿易収支の黒字幅は緩やかながら拡大を続けると見込んでいる。一方、旅行収支の黒字幅は緩やかに縮小基調にあるなど、サービス収支の赤字幅が大幅に縮小するという事は考えにくい。また、第一次所得収支の黒字幅は緩やかな縮小傾向が続いていたが、為替レートの変動が落ち着けば、所得収支は横ばい圏の動きに転じる公算が大きい。貿易収支黒字幅拡大が経常収支黒字幅の拡大要因となると見込んでいるものの、拡大ペースは極めて緩やかなものになる見込みである。

図表1：国際収支統計の概況（原系列）

(億円)	2016年8月	2015年8月	前年同月差
経常収支	20,008	16,249	+ 3,759
貿易・サービス収支	1,907	▲ 2,871	+ 4,778
貿易収支	2,432	▲ 3,292	+ 5,724
輸出	53,019	58,637	▲ 5,618
輸入	50,587	61,929	▲ 11,342
サービス収支	▲ 525	421	▲ 946
第一次所得収支	19,853	20,419	▲ 565
第二次所得収支	▲ 1,752	▲ 1,298	▲ 453

(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

「仲介貿易商品」の増加、輸入金額減少、第一次所得収支受取増加が黒字幅拡大要因に

2016年8月の国際収支統計によると、経常収支は2兆8億円と、26ヶ月連続の黒字となった。季節調整値で見ると、経常収支は1兆9,757億円と29ヶ月連続の黒字となり、前月（7月：1兆4,478億円）から黒字幅が5,279億円拡大した。

8月には、前月に金額が大きく縮小していた「仲介貿易商品」が反動で増加したことによる輸出金額の増加と、円高に伴う輸入金額の減少が貿易収支の黒字幅拡大に寄与した。さらに、直接投資収益の受取が増加し、第一次所得収支の黒字幅も拡大したことが、経常収支の黒字幅拡大要因となった。一方、旅行収支受取額の減少は黒字幅縮小要因となった。

貿易収支～輸入金額減少で貿易収支黒字幅拡大、「仲介貿易商品」も黒字幅押し上げ要因に

貿易収支は2,432億円の黒字となり、前年同月（▲3,292億円の赤字）から黒字化。収支額は黒字方向に5,724億円変化した。季節調整値で見ると、6,625億円の黒字となり、前月（7月：3,616億円の黒字）から黒字幅が3,009億円拡大した。8月には、米国向け自動車輸出の不振などにより財の輸出金額は横ばい圏での推移となったものの、円高に伴い輸入金額が減少したことが貿易収支黒字幅の拡大要因となった。また、貿易統計では計上されず、国際収支統計のみで計上される「仲介貿易商品」の金額が、大きく減少していた前月から反動で増加したことも、国際収支統計上の貿易収支の押し上げ要因となった。

サービス収支～旅行収支受取額の減少により季節調整値で見た赤字幅が拡大

サービス収支は▲525億円の赤字となり、前年同月（421億円の黒字）から赤字化。収支額は赤字方向に▲946億円変化した。季節調整値で見ると、▲1,262億円の赤字となり、前月（7月：▲1,074億円の赤字）から赤字幅が188億円拡大した。旅行収支（季節調整値）が、924億円の黒字となり、前月（7月：1,087億円の黒字）から黒字幅が縮小したことが赤字幅拡大の主因である。熊本地震後減少した韓国からの訪日客数は回復しているものの、中国からの訪日客数は減少基調にある。また、訪日客の一人当たり消費金額が減少していることにより、旅行収支の受取額はこのところ緩やかながら減少傾向にある。

第一次所得収支～直接投資収益の受取増加により黒字幅が拡大

第一次所得収支は1兆9,853億円の黒字となり、前年同月から黒字幅が565億円縮小した。季節調整値で見ると、1兆6,505億円の黒字となり、前月（7月：1兆3,781億円の黒字）から黒字幅が2,724億円拡大した。円高基調を受けてこのところ縮小基調にあった直接投資収益の受取が増加に転じたことが、第一次所得収支黒字幅拡大の主因である。

図表2：国際収支統計の概況（季節調整値）

(億円)	2015					2016							
	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
経常収支	16,572	9,493	16,050	15,498	16,458	14,361	16,361	19,007	15,881	13,915	16,569	14,478	19,757
貿易収支	▲961	▲1,593	719	1,738	1,103	2,184	2,453	4,318	3,996	3,355	4,638	3,616	6,625
輸出	63,278	62,479	62,362	63,363	60,698	58,888	56,124	55,370	54,745	55,061	56,066	54,563	56,761
輸入	64,240	64,072	61,643	61,625	59,595	56,704	53,671	51,052	50,750	51,706	51,428	50,947	50,137
サービス収支	150	▲998	▲1,399	▲494	▲1,427	▲432	375	▲668	▲393	▲1,313	▲2,087	▲1,074	▲1,262
旅行収支	1,078	978	1,004	1,087	1,207	1,396	1,396	1,255	728	813	1,029	1,087	924
第一次所得収支	19,263	14,973	18,402	16,373	17,889	14,266	16,047	16,497	13,936	14,037	15,249	13,781	16,505
第二次所得収支	▲1,880	▲2,889	▲1,671	▲2,120	▲1,106	▲1,656	▲2,514	▲1,140	▲1,658	▲2,164	▲1,231	▲1,844	▲2,110

(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

